

2015年度 パトリック・ジグマノフスキー客員教授 ピアノ 特別講義

1. 日 時 : 2015年 12月 18日(金) 13時 30分～16時 45分
2. 場 所 : ザ・カレッジ・オペラハウス
3. 対象学生【必修】 : 【3限】大学「ピアノ演奏法BⅠ」、短大「ピアノ音楽研究Ⅱ」各受講生  
【4限】大学「ピアノ基礎演習B」、大学「ピアノアンサンブルBⅡ・BⅢ」各受講生  
学内のみ他聴講可
4. 講 師 紹 介 : パトリック・ジグマノフスキー客員教授 Patrick Zygmanski

裏面参照

.....

.....

.....

.....

5. 講 義 概 要

【3限】

高奥 佳奈絵(大3)

シューマン

ウィーンの謝肉祭の道化 op.26 より 第1曲 アレグロ

徳原 大貴(大3)

ラフマニノフ

前奏曲集 op.32 より 第5番 ト長調

第13番 変二長調

【4限】

第1ピアノ 南 絢 子(大3)

第2ピアノ 釜浦 有沙(大3)

ブラームス

ハイドンの主題による変奏曲 op.56b

第1ピアノ 柳原 愛友美(大専)

第2ピアノ 高田 瞳(大専)

ショスタコーヴィチ

2台のピアノのための小協奏曲 イ短調 op.94

Patrick Zygmantowski  
パトリック・ジグマノフスキー

天才少年として、マルグリット・ロン、ラフマニノフ、ラヴェル、プロコフィエフ、プーランク、ピカソなどとの交流が深かった、フランスの名教授リュセット・デキヤブ（前パリ国立高等音楽院教授）の惜しみのない寵愛を受けた彼は、後、パリ国立高等音楽院入学。ジェルメン・ドゥベーズ、ジャン・ユボー、ジャック・ルヴィエ、パスカル・ドヴァイヨン、ジャン・ムイエール各氏に師事する。同学院にて、ピアノ、室内楽ともに金賞受賞。また彼は、指揮法も勉強するかたわら、在学中にパリ国立オーケストラのピアニストに抜擢され2年間、マゼル、ペカサロネン、プレトルなどの名指揮者のもと、現代曲などを数多く初演した。同時期、ピアノではプレスラー、シェボック、バシキロフ、ピレスにも師事した。卒業後ミュンヘン国立音楽院にドイツ政府奨学金生としてウィリアム・ケンフの直弟子であるゲラルド・オーピッツ氏に師事、ケンフの演奏法哲学、ドイツ音楽の見識を深めた。パリ国際室内楽コンクール1位、UNAPEC 国際コンクール1位、ヘンリゾーゲ国際コンクール1位、他数々の国際コンクールに入賞。その後、クラリネット奏者フロロン・エオーとデュオ、エオージグマノフスキーを結成。フランス音楽を録音したCDは非常に高い評価を受けた。（リランクス発売）、後ブラームスとレガーのCD（ジズザグテリトワール発売）が発売され、ディアパソン、モンド、クラシカなどに『エレガンスを失わずに威光を放つ演奏』と批評される。また、ソロ活動も盛んでラヴェル全曲集を録音中。

2006年には、現在フランスで活躍中のピアニスト、池田珠代との1台4手ピアノのDVD、CDが日本で発売された。また彼は、ラジオフランス、テレビ出演の他、ロックドンテロン音楽祭、アカデミーラヴェル、カンヌ音楽祭、ソー音楽祭、ランス音楽祭、クールシュベル音楽祭など数々の音楽祭に招かれ、その実力と経験、幅広い交友関係をいかし、2002年から、自らがプロデュース、音楽監督そして出演する「ボルドー音楽祭 MUSIQUE FESTIV'」を毎年手がけている。7回目となる今年も、ボルドーで7月開催、世界各国から一流の音楽家が彼のもとに集まる。2007年より、「ボルドー音楽祭 SIQUE FESTIV' in 横浜」として、日本でもプロデュース。また、作曲、編曲者としても活躍。コメディーフランセーズやラジオフランスで、音楽のジャンルを問わずアレンジメントも手がける非常に多彩なアーティストである。モンペリエ国立音楽院教授、リヨン国立高等音楽院助教授を歴任した後、異例の若さでパリ・エコールノルマル国立音楽院教授にも任命され、教鞭を取っている。2007年、その活躍でフランス芸術アカデミーからデルマス賞を授与された。2008年、大阪音楽大学客員教授に就任。